

祭光

765号

2026年3・4月
日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
<https://den-church.jp/>

私の主、私の神よ

ヨハネによる福音書二〇章二四〜二九節

牧師 山北 宣久

疑い深いトマスに声をかけ、自らを示し給うた復活の主に私たちが出会うこと、それがイースターに相応しい。

トマスは疑い深い人というより自分に正直な人と言ったほうが良いかと思う。分からないのに、分かったような顔をするのでできない人であった。

復活の主イエスが来られた時、トマスだけが不在であった。彼ひとり疎外感があつて居心地が悪かつたに違いない。

「さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。」(二六節)

この八日目の顕現はトマスのためだったとも言えるのではないか。主は「あなたの手を伸ばし、わたしをわき腹に入れなさい。」と二五節にあるトマスの疑いに答えるが如くに対応している。これは直前のマグダラのマリヤに「わたしに触ってはいけない。」と言つた(一七節 口語訳)のと対照的である。

信じきれない人間の弱さ、どうしても素直になれない卑屈さに見切りをつけることなく、なお手を伸ばそうとする愛の迫りそのものであつた。

トマスは圧倒的な愛に包み込まれ「わたしの主、わたしの神よ」と大いなる信仰告白を成すに至つた。まことにただ愛のみが、当惑、不信という深淵を超えさせる翼なのであろうと確認させられる。

主は最後に言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」(二九節)

「見ないのに信じる人」それは愛の世界に生きる者のことである。人は愛があれば見ないでも信じられるが、愛がなければ見ても信じないものなのだろう。

さて、「主にあつて一つ」なる教会標語のもと二〇二五年度を主に導かれ歩んできた。

一 一年間田園調布教会にて説教し、牧会、伝道を尽くした高橋和人牧師を送り出したあと、まさに人間的な思いを超えてこの年度を歩み切つた。

そしてこの度は七年間支え続けた姜俣米牧師を榛原教会に遣わし、来年四月に新しい主任牧師を招聘する体制を整えつつ、前進していく。

変化の続く田園調布教会にあつて変わらぬ信仰を保つには、人間的迷い、動揺を超えて復活の種を仰ぎ、すがりつき「わたしの主、わたしの神よ」と告白しつづけることが全てである。

「見ないで信じる人」の集い、つまりただ「父・子・聖霊なる神」の愛の世界に生きる信仰をかき抱いて、「死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない」(詩編二三篇四節)との有様を重ねていこうではないか。そうできるのは同節の「あなたが・わたしと共に・いてくださる」との四つの言葉の確かさに依るのである。

二〇二六年度は奇しくもイースターで始まり、イースターで終わる一年となる。

主の復活と恵みの間に挟まれた歩みを踏み行く私たちは、滅びと無意味に陥らせる死を超えて喜びと希望の道を辿り行く。

愛は死を超えるという確かさをわたしたちの初穂として、甦らせられた復活の主イエスにあつて実感しつづ進み行こう。

(二〇二六年四月一二日)

公同礼拝・夕の公同礼拝)